

kcal で管理したが、排便回数が1日10回前後と多く、血清アルブミン低下、体重その他の栄養指標も低下した。生体電気抵抗測定法によると、体重減少の主因は除脂肪体重の減少で脂肪重量の低下は軽度であった。そこで3月27日よりIVH再開。cyclic-TPN訓練中であるが、高齢であること、自宅が遠隔地で交通事情が悪いことから、HPNへ移行出来るかどうかが問題である。

### 33) 村上病院における過去20年間の手術症例について

清水 春夫・村山 裕一 (村上病院 外科)  
吉田 奎介 (新潟大学第一外科)

昭和44年12月村上病院赴任以来20年間に手術数が約1万例となり、今回この全症例をコンピューターに入力し解析を行いました。県北最先端病院にても手術内容が時代の流れに沿ってそれ相当に大変な変化が見られます。手術総数は9653例で男性が5577例、女性が4076例、最近では高齢者の手術が急激に増加し最高齢者は悪性疾患で91歳良性疾病で92歳でした。また minor surgery が

減少し消化性潰瘍患が昭和56年をピークとして激減します。H2-ブロッカーの登場と内視鏡テクニックの向上によるものと思われます。悪性疾患の手術例は増加し特に胃癌、大腸癌の増加がめだちました。20年間県北の第一線病院でコツコツと手術をやってまいりましたが今思うに寒気のするような失敗も経験しています。しかし、なんとか無事にすんできたこと、一件の訴訟事件にも遭遇していないことなど運もよかったんでしょうが、武藤教授、吉田助教授を始め多くの諸先輩及び外科教室の皆様のおかげと感謝しています。

## II. 特別講演

### 「癌の免疫療法」

新潟大学医学部産科婦人科 教授

田 中 憲 一 先生

佐藤 好信・杉本 久之 (東京大学医科学研究)  
長尾 桓・秋山 暢夫 (所人工臓器移植科)